街道を歩く

東海道近江：05三雲一夏見一石部一伊勢落

野洲川の洪水で通行不能となったので膳所藩主本多康慶は18町8町の迂回路を造り（上道）石部の五軒の茶屋を移転させたが遠廻りのため利用が少なく天和2年（1682）には「近道禁止札」が出されたという。
明治になって堤防も整備されたので元の道（下道）が本流になったという。

石部宿　水口宿より3里半、本陣2、旅籠32。町並み15町3間
「京たち、石部泊まり」といわれ、京から江戸、伊勢に向かう旅人が最初に泊まる宿場であった。
古代、伊勢大路の"石部駅家"あったとされ、源雅実が伊勢参詣のとき泊まったとされる。家康も文禄4年（1595）京都伏見に向かうときここに泊まる。
小島本陣　中町、三大寺本陣　谷町、問屋場高札場　大亀町にあった。芝居「桂川連理柵」の舞台は此処の旅籠。石部の名を広める。

吉御子神社
崇神天皇創建との伝えられる古社。
本殿は元治3年（1864）京都の加茂別雷神社の社殿を受けて造営。三間社流造、檜皮葺。

吉姫神社
宿西の吉御子神社と対をなす社
上社が吉姫大明神、下社が吉彦大明神を祀る。伝えによると倭姫が阿佐加潟（阿佐加神社）へ御杖代として向かわれた時多気連の祖宇賀彦の子、吉比女と吉彦が参りて御田と麻園を献上されたという。

境内に芭蕉が"野ざらし紀行"で詠んだ句碑。左書き
"つゝじいけて　その陰に
干鱈さく女"

小島本陣
小島金左衛門は膳所藩主本多俊次、康将に仕え、その功により承応元年（1652）本陣職を拝命する。
本陣は芝居「重の井子別れ」で知られた「恋女房染分手綱」の舞台

石部鹿塩上神社に比定される。
白雉元年（650）阿星山天上から此処の西北の宮山御幡塚に祭神の伊弉再尊、国常立尊が降臨、天智天皇3年（664）此処に勧請。境内に本多伊予守領の境界石。

普通の松と異なり根元で幾本にも枝分かれして傘のようになる。
（指定天然記念物）

弘法大師が此処を通りかかり眺めが良かったので昼食をとりその時使った杉箸を堤に刺したところ大杉となったという。元は2本であったが安永2年（1773）の台風で1本は倒れたという。

高札場跡